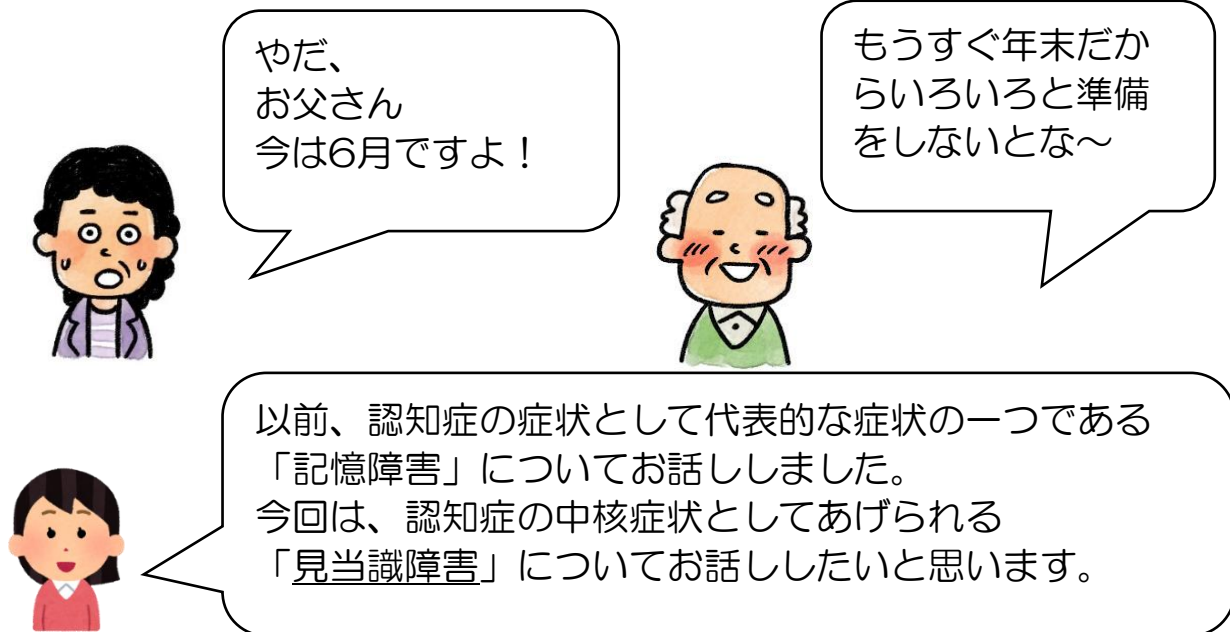




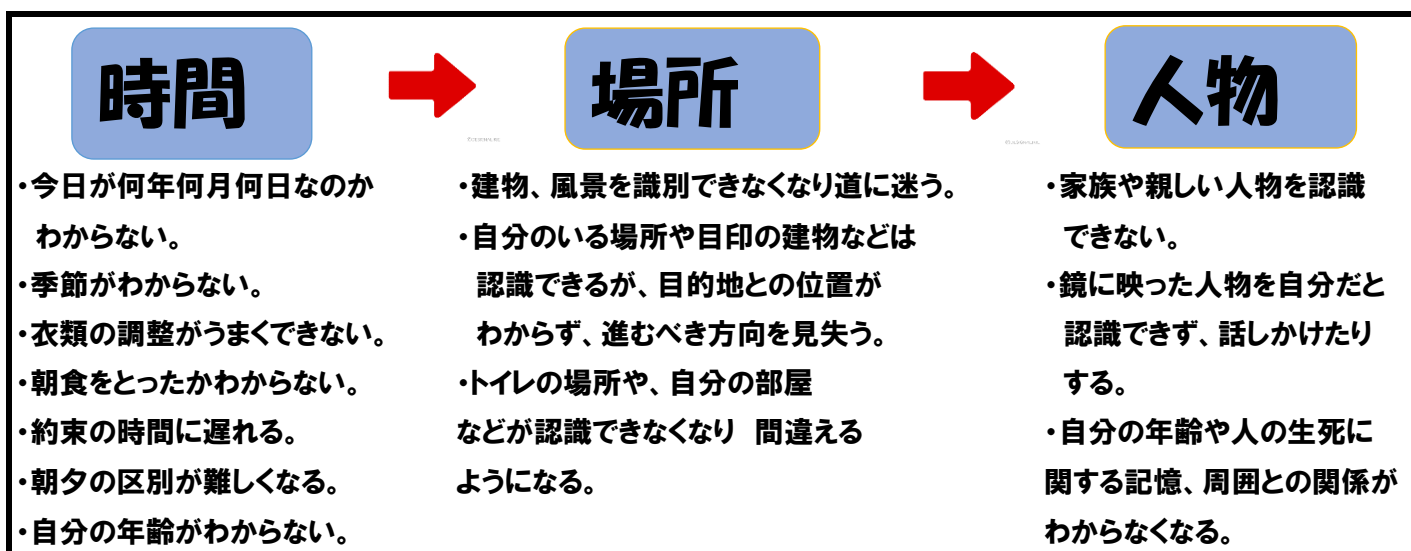
中核症状とは・・・記憶障害、見当識障害、実行機能障害、失認、失行、失語等があります。

見当識障害・・・時間や空間、周囲の人物認識する能力が低下した状態をいいます。

＜見当識障害があると次のような症状がみられるようになります。＞

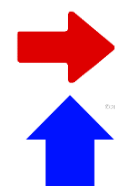
- ・今がいつで、どこにいるのか、
- ・相手が誰なのかがわからなくなる。
- ・なじみの場所で道に迷う。
- ・家族や親しい友人なのに誰なのかわからなくなる。
- ・季節と合わない服装をする
- ・出来事の記憶があっても、いつのことかわからない。等

＜見当識が低下する順番＞



＜見当識障害がある方に対しての対応のポイント＞

〇〇がわからない。



〇〇がわかるように

←何に対して見当がつかないのか考える

本人が**見当がつきやすいように事前に準備、工夫を行っていきます。**

例えば・・・

〇〇がわからない		わかるように
何月何日がわからない。	→	大きなカレンダーを用意して一緒に確認をしたり、事前にこちらから日にちを伝える等
季節がわからない。	→	「今日は暑いねー」「今日は肌寒いねー」「今は夏だよ」「これから半袖の季節だね」など季節がわかるように言葉がけを行う。等
衣類の調節ができない。	→	「今日は暑くなりそうだからこれを準備しておくね」「今日はこの洋服にしたら？似合うと思うよ」等と一緒に言葉がけをしながら洋服を準備する。等
トイレの場所がわからなくなる。	→	事前にトイレへの言葉がけを行う。 トイレとわかるように目印をつける。 トイレ掃除を毎日一緒に行う。等
相手がだれかわかなくなる。	→	先に「（私は）●●だよ」と名前を伝えて会話がしやすいようにする。
朝食を食べていないという。	→	食事に制限がなければ、もう一度食べてもOk。 食事制限がある場合は、「今日はこれしかないのでごめんね。少しでもいい？」などと言葉がけに工夫をする。又、食べたもの（食器等）を一時見える形で置いておいて確認できるようにする。 食べた後一緒に皿洗いをする。（ルーティンにすると訴えが減る可能性がある。）



「人」によっては、「もう食べたよ」というと、「そう」とわかる方もいらっしゃると思います。感じ方は十人十色。見当識障害があるからといって、全てわからなくなってしまうわけではないのです。間違えているからといって、それを正すことよりも、本人がどうしたら安心して過ごせるかの視点を持ち、その「人」を見て、その「人」にあった言葉がけ、対応を行っていくことが大切です。

和田ふれあいの家お悩み相談室（ご利用者様、ご家族様限定）

- ・介護についての悩み、相談など
- ・自身の身体のことや物忘れや心配事など

電話 03-3312-9556

メール wada@3friends.or.jp

聖心学園幼稚園の園児の皆さんと交流会を行いました！



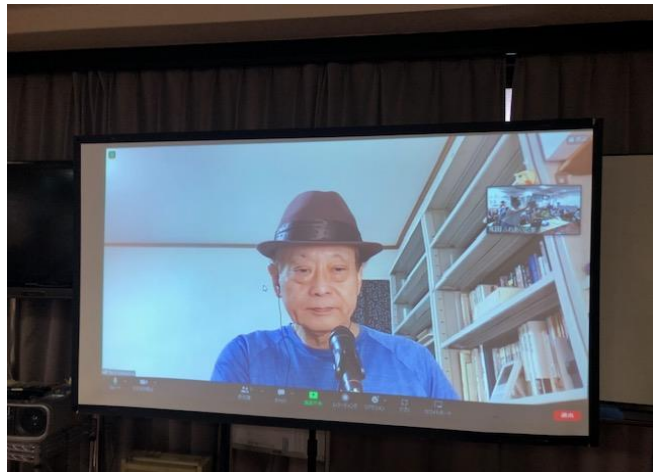
園児たちがとても
かわいかったです！

この日は、園児たちが練習してきた歌を聴いたり、
こどもの日のクイズなどを行いました♪

今後は、園児の皆様と一緒に「富士の山」「故郷」を
一年間かけて練習し、皆さんが子どもの頃に親しまれた
歌を園児たちに伝承できればと思います。



テリー中島さんと歌おう会



ご利用者が楽しみにしているテリー中島さんの歌の会。
ご利用者とテリー中島さんとのオンラインを通しての掛け合いが楽しく、
会場はいつも笑いで包まれます。
この日もたくさん笑って、たくさん歌いました！
とっても元気になる会です！！
6月もテリー中島さんと一緒に歌う会がありますので
お楽しみに！



日々のふれあい写真館



元気に
ラジオ体操！



運動プログラム



頂いたお花で
フラワーアレンジメント



お母さん見て！
これご利用者が
作ったんだよ！



折り紙で作った手作りカーネーションとともに♪



ま～きれい！！！！

<楽し湯>

入浴では、バラのお風呂をご用意しました！
ピンク色とほのかに紫色のお風呂。
香りも良くいずれも大好評でした！！！！

